

静岡バス放置死

娘いない1年「長かった」

父、こども園に「強い怒り」

静岡県牧之原市の認定こども園「川崎幼稚園」で、園児の河本千奈ちゃん(当時3歳)が通園バスに置き去りにされ、熱射病で死亡した事件から9月5日で1年となるのを前に、父親(39)が30日、静岡市内で記者会見した。父親は「千奈が亡くなって存在の大きさを改めて実感している。『助けてあげられなくてごめんなさい』と伝えたい」などと心境を語った。

記者会見で父親はこの1



記者会見で涙ぐむ千奈ちゃんの父親(30日、静岡市で)

年について、「お風呂に入ったとき、ご飯を食べてい

るとき、同じくらいの年齢の子を見たとき、いろんな場面で千奈のことを思い出す」と振り返り、「人生で一番長く感じた」と話した。また、「以前は当たり前すぎて実感できなかった『幸せ』『楽しい』という」ことを、亡くなった今、実感している」とし、「千奈は今でも家族の主役」と語った。千奈ちゃんに伝えたい思いを聞かれると、「助けてあげられなくてごめんなさい」と涙ぐんだ。

こども園に対しては、事件後の面談で廃園を約束したのにほごにされたとし、「誠意ある対応が見えず、怒りは強くなっている」と述べ、廃園や別の運営法人とすることを求めた。

事件は昨年9月5日に発生。千奈ちゃんが園の駐車場のバス車内に約5時間わたり取り残されたこの日、牧之原市内の最高気温は30.5度を観測した。県警が同様の環境で実施した検証では、車内の温度は45度超だった。県警は昨年12月、当日バスを運転していた増田立義理事長(当時)やバスの補助員だった元派遣社員、元クラス担任ら計4人を業務上過失致死容疑で静岡地検に書類送検した。